

(様式2)

校種	⊙ ・ 中 どちらかに○	学校番号	15	学校名	宇都宮市立泉が丘小学校
----	-----------------	------	----	-----	-------------

## 令和4年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「読むこと」の領域で市の平均正答率を上回る結果だった。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域では市の平均正答率より下回っている。話し合い活動を設定するなど、聞き取る力を高め、話し手の考えと比較しながら自分の考えを深められるよう指導の改善を図りたい。昨年度の課題であった「書くこと」の領域では、市の平均正答率を上回る結果となったが、無回答も多く正答率も低い。昨年度に引き続き、自分の考えを表現する言語活動の充実を図り、表現力・思考力の育成に努めたい。
- ・社会は、どの領域、観点においても市の平均正答率を上回る結果を得た。昨年度の課題であった資料を読み取り、考え、記述する設問については、資料を正確に読み取ることができない児童も見られ、やや正答率が低い。今年度も重点課題として取り組んでいきたい。
- ・算数は、全ての領域で市・県の平均正答率を上回る結果であった。基礎・基本の習得に取り組んできた結果であると考えられる。しかし、「データの活用」の領域のグラフを読み取り、それを根拠に判断し理由を説明する記述式の問題では市の正答率より上回るが無回答も多く、正答率は低かった。判断したことを根拠を明らかにして説明すること、相手を意識しながら筋道を立てて説明することができるよう、指導の充実を図っていきたい。
- ・理科は、どの領域においても市の平均正答率を上回った。昨年度の課題であった「思考・表現」の観点でも、市・県の平均正答率を上回る結果となった。習得した基礎知識を応用できるよう、発展問題に取り組んだり、実験結果などから考えを説明する活動を通して知識・理解を深めたりするなど、一層の思考力・表現力の育成に努めたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「学校の授業が分かる」と回答した児童は約9割だが、「学習に進んで取り組んでいる」の項目では、市の肯定割合をやや下回った。また、「勉強は好き」の項目では、全学年が市の肯定割合を上回ったが、「各教科の学習が好きか」の項目では、教科によって市の肯定割合を下回る結果であった。子供の学ぶ意欲を高め、目標を達成できた充実感や学ぶことの楽しさを味わえるような学習活動や興味・関心をもって取り組める学習課題の設定等の指導の充実を図り、学びに向かう力を育んでいきたい。
- ・「授業で習ったことをその日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」では、市肯定割合と同等かやや下回る結果となり、個人差が見られる。発達段階に応じた家庭での学習時間の取り方や内容について提案をし、保護者と協力しながら家庭学習の定着を図りたい。

- ・「話し合いに自分から進んで参加する」や「自分の考えを根拠をあげながら話す」の項目では肯定割合がやや低い。今年度も引き続き、「自分の考えを書く活動」の習慣化や、それを基に、「聞く・話す」などの言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」、「話し合い」活動の充実を図り、取り組んでいく。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学習の準備や始業前の着席など、本校児童は落ち着いて学習に臨むことができている。概ね望ましい基本的な学習習慣が身に付いているといえる。
- ・学習の基礎・基本となる漢字の読み書きや計算等は、朝の学習等で繰り返し取り組むことで習熟を図ることができている。しかし、学力の二極化も見られるため、細やかな実態把握と底上げが必要である。

## 2 今年度の重点目標

### 令和4年度の学習指導上の重点目標

筋道を立てて考え、表現する児童の育成  
— ICTを生かした授業づくりを通して —

### 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

#### ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

##### ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- ★□○児童の学習に係る課題とその要因把握(学力調査結果の分析)の上で、実効性の高い取組を検討し全校体制で同じ方向性に基づいた学習指導を推進する。
- ★□○授業の目標、学習課題、学習計画を基にした学習の見通しから、本時で行うこと(めあて)のはっきりとした理解を促す。
- ★□○児童が各教科の「見方・考え方」を働かせてじっくり課題に取り組めるよう、的確な見取りと適切な指導・支援を行う。
  - 学びに向かう力を育むために、実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図る。
    - ・姿勢、返事等の基本的な学習態度指導を徹底する。(「学習のきまり」の活用)
    - ・朝の学習の指導の充実を図る。

##### ② 思考力・判断力・表現力等の育成

- ★□○思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。
  - 物事の中から問題を見だし、解決方法の見通しをもちながら、筋道立てて考え、問題を解決していく過程を重視する。
  - 記述を基に文章の構成を捉えたり、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深め

たりする学習の充実を図る。

- ・読書活動を推進する。(語彙力の強化)

### ③ まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化

□○本時の目標や評価規準に基づいた、すっきりした簡潔なまとめをする。

- ★□○児童の言葉で表現し、学んだことを実践できる振り返りの充実と、学習意欲を育成するための振り返りに対する具体的な言葉かけ(称賛・価値付け)を行う。

□○単元や学期末・学年末に復習やまとめの学習をする機会を設定し、基礎・基本を確実に習得させる。

□○発達段階に応じた宿題や家庭学習の内容や分量を検討し、指導する。(「家庭学習の手引き」の活用と計画的な家庭学習の充実)

### ④ 専門性の高い授業展開

○新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に向けた、日々の教材研究の充実を図る。

- ・高学年での教科担任制を生かし、教材研究を深め、専門性の高い授業を展開する。

#### イ 個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進

- ★□○多様な人々と互いのよさを生かしながら、協働して課題に取り組む態度の育成を目指す
- 児童の学び合える活動の工夫と、教師のコーディネート力の向上を図る。

□○個に応じた指導の充実(少人数指導、習熟度指導、TT方式による授業)を図る。

- ・自分の伸びや変化を自覚できる授業の開発と評価の工夫をする。

- ★□○タブレット等のICTを活用した学習活動やプログラミング教育の充実を図り、自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。(校内研修の充実)

○A I型ドリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。

○協働学習ツールを積極的に学習活動に取り入れ、多様な他者とともに課題解決に取り組むことで、教科の学びを深める。